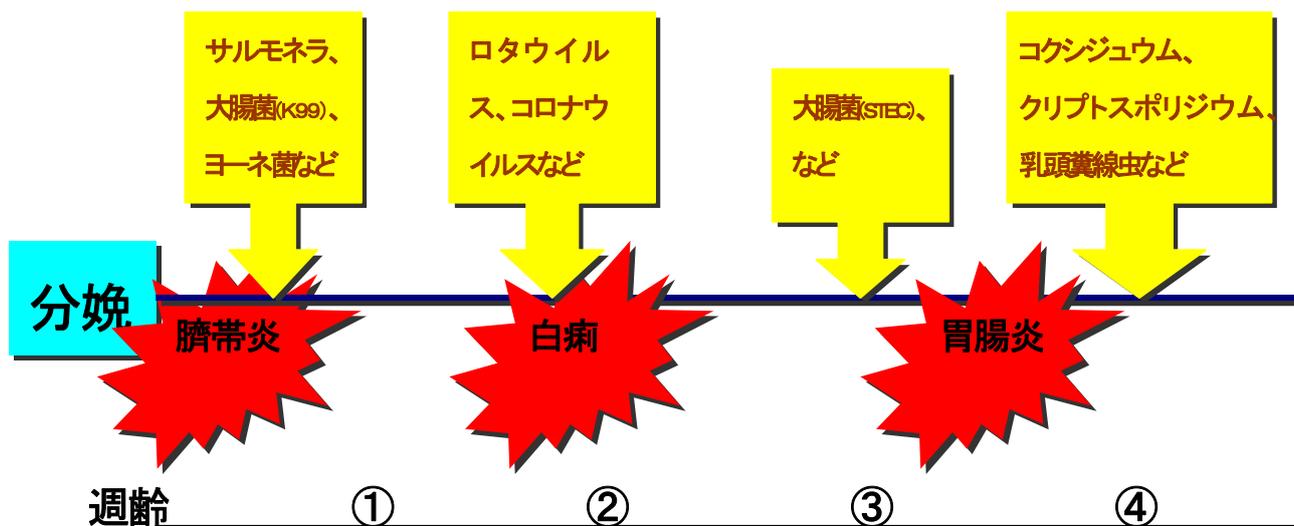




子牛の下痢に注意！

暦の上では春ですが、これからの季節は、子牛にとって最もつらい季節です。肺炎（20年家保ニュースで紹介）や下痢が多く見られるようになります。子牛の下痢症には天候や管理失宜などのストレスのほか、食餌性、中毒など非感染性下痢症とウイルス、細菌や寄生虫などの感染による感染性下痢症があります。一旦子牛が下痢に罹ると経済的損失は治療代のほか、下痢に罹り発育が遅れ飼養期間が長くなるための飼料代、さらに農家の精神的負担も大きいでしょう。今回、子牛の感染性下痢症に絞ってその主な原因と対策について紹介します。

1 感染性下痢症の主な原因と罹患時期は？



2 主な予防・対策として、

分娩舎は清潔を保ち、踏み込み消毒槽を設けるなど衛生面に気を配りましょう。母牛にストレスを与えない飼養管理は、分娩時の事故を少なくする要因です。予防にワクチンを母牛に接種し、分娩後直ちに十分量の初乳を与え下痢に罹りにくくする方法もあります。下痢を発見したなら直ぐに、かかりつけ獣医師に連絡しましょう。

